



ハイブリッドは 目的地ではない

出発点である

ビジネスリーダーは現在、ハイブリッド型労働という着想に非常に満足しており、これが万能薬のように受け取られていますが、それではアプローチとしてあまりにも単純です。

あらゆる場所がオフィスになるということは、「不合理な」期待をもたらします。人々はどこにいても、常にオフィスのデスクにいるかのように、同じ速さ、同じ効率、同じセキュリティレベルで作業することを期待されます。この不合理を実現できるかどうかは、IT部門にかかっています。

コラボレーションを例にとってみましょう。IT部門は、すべての従業員が何百マイルも離れていても、一室に集まっていると感じられるようにする必要があります。生産性については、人々がどこで働いていても、生産性を最大限に高められることに重点を置く必要があります。

同時に、私たちは将来に備える必要があります。この2年間で何かを学んだとしたら、それは不確実性が唯一の確実性であるということでしょう。

不確実性に対してどのように計画できるでしょうか。矛盾しているように聞こえますが、多くのビジネスリーダーはすでにこの前提を企業戦略の中心に置いています。従業員が疑いもなく従える5か年計画は過去のものとなりました。その代わりとなるのが、経済学者で作家のBill Conerly博士が語る「柔軟なスタンス」です。¹

ユナイテッド航空のCEOであるScott Kirby氏はその戦略を採用し、2021年のすべての予算を廃止しました。代わりにKirby氏は「バウンズバック チーム」²を編成し、ユナイテッド航空に必要なリソースとそうでないリソースを書き出し、需要が回復したときにすぐに乗務できるパイロットの不足などの障害を予測するという任務を割り当てました。

Kirby氏の「不確実性に備え、失敗に備えよ」というメッセージは、すべてのビジネスリーダーに当てはまるシンプルなメッセージです。



不確実性に備える

ビジネスはそれぞれ異なるため、すべてのビジネスに当てはまる一定の黄金律はありません。しかし、すべての企業に当てはまる4つの原則があります。

すべての人とつながる

自宅や本社、高速で移動する列車内など、人がどこで働いているかは関係ありません。チームとして平等に扱われるために必要なコラボレーションツールを全員に提供する必要があります。

セキュリティを簡素化する

パンデミックの際に前例のない数の攻撃が見られたように、サイバー犯罪者は不確実性を利用して勢いを増すため、最高情報セキュリティ責任者（CISO）は基本原則に集中して備える必要があります。

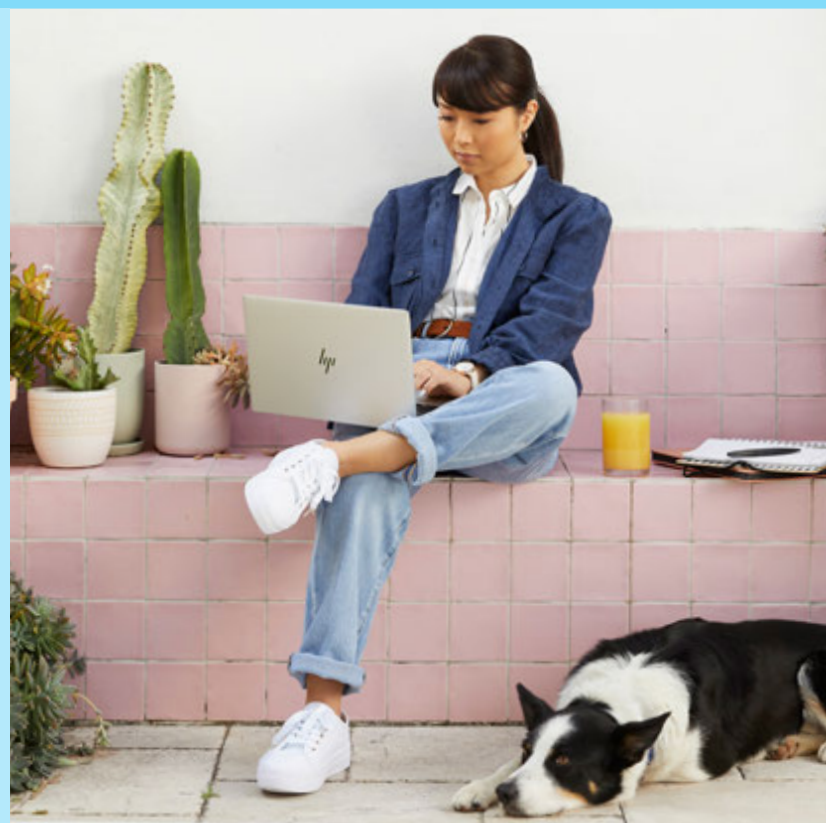
事後対応型のワークフローを選ぶ

将来的には、ますます多くのツールや従業員からの要求が増えていき、あらゆる場所、あらゆるデバイスで作業するための需要がさらに生じるでしょう。この未来に備えなければなりません。ビジネスの中断は敵です。

柔軟な計画を受け入れる

逆説的に言えば、柔軟な計画は、存在する必要はありません。不確実性を無視するのではなく、受け入れる必要があります。

この電子書籍では、すでに現場で困難な意思決定を行っている前向きなビジネスリーダー、セキュリティエキスパート、およびIT意思決定者からの助言に学ぶことができます。



米国とEUの情報担当者の50%は、パンデミックが世界を「永遠に」変えてしまい、「通常」に戻ることはないことを確信しています。

Forrester³

人を つなぐ

かつては同僚がオフィスで有機的につながっていました。そのような習性は考え直さなければなりません。企業は、人々がどこからでも「集まれる」と感じられる自由を与える最新のツールを採用する必要があります。



過去 →

一元化されたオフィスが標準であり、モバイルワーカーは例外

従業員の期待は類似しており予測可能

コラボレーションは主にオフィスで発生

現在 →

ハイブリッド作業が標準だが、人々は自分が所有するツールで業務を遂行

従業員は自分の生活状況に応じて異なるものを希望

コラボレーションはその場で発生

未来

場所は関係なく、労働者は「どこでも働ける」ために構築されたツールを期待

従業員は移動中の作業とオフィスでの作業について、ツールと状況の面での対等性を要求

ITにより、分散した従業員のシームレスなコラボレーションが可能に

多くの企業にとって、パンデミックは「落とし穴」でした。Equifax社グローバル製品担当VPのLynne Labrador氏も、そのように語っています。その時点まで、一部の組織では、仕事をするには人が実際に建物の中になければならないという信念に固執していたと彼女は論じています。

「どの企業がパンデミックから希望のきざしをつかもうとしているかはわかりません。これを機会に、仕事のための特定の場所にいる必要はないという事実をしっかりと認識しましょう」とLabrador氏は語っています。

Labrador氏の主張はForrester社の調査による主張と同じです。同社は60%の企業がハイブリッド型の労働モデルへの移行に多大な苦痛を被ると予測しています。「どこでも働ける」ようにする組織の最初の試みの3分の1は、単に機能しません。⁴

Forrester 2022ガイドには、次のように書かれています。「リーダーはハイブリッドモデルを支持すると主張しますが、それでも実際の対面を重視した会議や担当業務、昇進の機会を計画します。生産性が明らかに低下しても、これらの経営幹部はハイブリッド作業がその原因だとみなし、鏡に映る本当の犯人（つまり自分）を見ようとはしません」⁴

では、この一見手に負えない問題をどのように解決するのでしょうか。テクノロジーを使用して、従業員のつながりを維持します。つまり、会議室のあり方を見直して、離れた場所にいる従業員を中心に据えるのです。それは適切な印象を持たせるために必要なハードウェアを従業員に提供することです。

「リーダーは…それでも実際の対面を重視した会議や担当業務、昇進の機会を計画します」

Forrester社の調査⁴

そして何よりも、従業員が自宅、オフィス、ビーチハウスなど、どこで働いているかに関係なく、従業員をつなぐことを意味します。どこにいるかに関係なく、全員の声が聞こえるようにしなければなりません。

HPのハイブリッドワーク用製品・ソリューションで従業員がどこからでも集まれるようにしましょう。

HPのハイブリッドワーク用製品・ソリューション



セキュリティを 簡素化する



HP WOLF SECURITY



攻撃の量とエンドポイントの数が増加した今でも、10年前と同じセキュリティ原則が今日適用されています。この防御の実装方法は、絶えず適応させる必要があります。

過去 →

オフィスで勤務するスタッフの保護を重視

データはサーバーに一元化され、クラウドによって補完

サイバー犯罪者は特定のプロファイルを持つ企業を標的にする

現在 →

あらゆる場所のエンドポイントを保護することを重視

データはクラウドにシフトし、オンプレミスサーバーとペアリングする

サイバー犯罪者が新しい機会を捉えるたびに自動化された攻撃の標的が拡大

未来

保護機能を組み込んだ資産を重視

データは場所に依存させず、かつサイバー攻撃からの保護が必要

エンドポイント数の増加とともに攻撃が加速するため、防御機能が組み込まれたハードウェアが必要

Rois Ni Thuama博士は、政府や世界最大級の企業を監督している企業であるRed Sift社のサイバーガバナンスの責任者です。そして、不安を抱えているCISOに対し、パニックになる必要はないと強くアドバイスしています。

Ni Thuama氏の指摘によると、ENISA（欧州連合ネットワーク情報セキュリティ機関）は過去10年間、脅威の状況に関するレポートを毎年公開しています。最も大きい問題を表すために使用される正確な名前は変化していることもありますが、脅威自体は同じままで、ランサムウェア、マルウェア、および電子メール関連の攻撃です。

そのため、リソースを何に投資すべきかを検討するときは、このような脅威に注力することをNi Thuama氏はアドバイスしています。「エンドポイントについては、エンドポイントの多要素認証を導入する必要があります。強力なパスワードが必要であり、DMARC[メール認証]が必要です」

Labrador氏は、ゼロデイ攻撃を防ぐために更新を確実に展開するように、企業のすべての資産にわたる強力なガバナンスの必要性を付言しています。「大規模なデータ侵害のニュースで報じられたい人など誰もいません。そのためにはガバナンスが必要です。脆弱性を修正する必要があります。[そして]それは、すべての資産の場所をどれだけ効率良く追跡できるかということから始まります。」

また、その資産を使用する人が、修正が入手可能になったときに必ずパッチを適用すると決めてかかることもできません。Labrador氏は次のように語っています。「もしコールセンターのスタッフが怠惰のためにこのようなソフトウェアアラートに対応しない場合は、今、更新を行わないと2日後にログインできなくなるとします」

これを実現するには、どこで作業を行っていても従業員とビジネスを保護するハードウェアとソフトウェアが必要です。分散した従業員がサイバー攻撃によって業務を中断させられる前に、サイバー攻撃を防御し、検出して回復するセキュリティ機能が組み込まれたPCが必要です。



生き残るために 作業者にツール を提供する



新しい不確実な現実において企業が成功するには、人々の働き方の変化を積極的に受け入れる必要があります。つまり、人々に与えるツールを一から考え直さなければなりません。

過去 →

作業者は、もしあったとしてもデスクトップPCかノートPCかの選択肢しかない

ITチームがインフラストラクチャとツールを提供し、妥協は皆無

デジタルトランスフォーメーションへの移行はゆっくりと着実

現在 →

作業者は、どのようなハードウェアであっても可能な限り利用できる

作業者はサードパーティのツールで新しい現実に対応

デジタルトランスフォーメーションが驚異的なスピードで進展

未来

IT部門はシームレスな生産性を実現するように設計されたハードウェアをスタッフに提供

IT部門は分散した従業員を支援するためのプレゼンスベースのテクノロジーを採用

応急処置を恒久的かつ洗練された解決策に置換することが必要

戦略、ガバナンス、リスク コンプライアンス、およびサイバーセキュリティに関する助言を企業に提供するコンサルタントであり、Define:Athene社のマネージングパートナーであるMark Evans氏は次のように語っています。「私がコンピューター関係の仕事をはじめた頃は、ハードウェア、オペレーティングシステム、ソフトウェアの面での変化は非常にゆっくりとしたものでしたが、その変化は指数関数的に加速しました。」

変化の速度は、人々がIT部門から提供されたのではなく、自分で購入したツールによって高められてきました。Evans氏は次のように語っています。「誰もまったく予想できなかった市場への参入者が現れました。どうすれば元に戻すことができるのかはわかりません」

ITリーダーは、各個人が働く場所と、彼らが採用することを選択した作業ツールに関する不確実性に対処する必要があります。Evans氏は次のように語っています。「一部の組織は変化を積極的

に受け入れるでしょう。一部の組織はそれを認めながらも抑制しようとするでしょう。そして、一部の組織は単に拒否するでしょうが、それは停滞することにつながります」

先進的な考え方は、1つの要素にすぎません。ITリーダーは、従業員がどこにいても生産性を発揮できるようにするソリューション（ハードウェア、ソフトウェア、またはその両方の組み合わせ）を従業員に提供する必要があります。それがホーム オフィスでも、カフェでも、期間限定の作業スペースであっても、リモートワーカーはオフィス内ワーカーと対等性を持つ必要があります。

実際にはどういう意味でしょうか。ホーム オフィスであれば、高品質のモニターに加えて、ドッキングソリューションによる即時の拡張性を意味します。移動中であれば、バッテリーが1日中持つ軽量のノートブックを意味します。そしてどこにいても、作業者がオフィスの席にいるかのように、中断されるおそれもなくシームレスに接続できることを意味します。

柔軟な 計画を 受け入れる

ここ数年は、予算と長期計画のどちらも信頼できるものではありませんでした。問題は、それが今後はどれだけ頼りになるかということです。



過去 →

5年間のビジネスプランが合理的

売上高から必要なスキルまで、
ビジネスのほとんどの要素は予測可能

計画は上層部が決定し、(ほとんど)
順守された

現在 →

1年間のビジネスプランは楽観的と思われる

1年先でさえ予測することが困難

新しいツールと効率性により
作業側側の権限が増加

未来

可能な限り迅速に対応できる
パートナー

将来の予測を支援するパートナー

必要なすべての解決策を提供できる
パートナー

Labrador氏は、「5か年計画は危険です」と述べています。5か年計画や単年計画など、どのような計画を立てても構いません。しかし、計画の全体像が大きくなるほど、フィードバックループや、新しいことを学ぶたびに変更する俊敏性が考慮されなくなります。

2023年までに、企業の80%がクラウドにリンクされたAI支援型のガバナンスサービスを使用して、分散したリソース/データを管理、最適化、および保護するようになります。

IDC⁵

もう一つの大きな問題は予算です。IT部門が年間ベースで予算を組んでいる場合、たった今発見された弱点を埋めるという差し迫ったニーズに対応するための資金をどこから見つけるのでしょうか。

Labrador氏は、氏のチームがかつてメキシコで導入されようとしているATMの脆弱性を発見したときの話をしました。この緊急の作業に対処する資金がなかったため、脆弱性は修正されませんでした。氏は次のように説明しました。「それは土曜日の午前2時に導入されたコードでした。午前2時5分までに、[銀行から]4,500万米ドルが奪われたのです。」

これはよくある問題、つまり、古く時代遅れの原則に基づいて構築された計画の柔軟性のなさを物語っています。ITチームは常に問題に挑み続けなければならない、その場の火消しに忙しすぎて、迫り来る火の海を見ることができないのです。


これは2年前でもあまりに不適切でした。今日では作業者が分散し、保護を必要とするエンドポイントの数が加速し続けているため、ITチームは、ただ製品を販売するだけでなく、問題が発生する前に問題を解決することを支援するパートナーのサポートを必要としています。


スタンスを変える


「通常に戻る」ことはもうありません。世界は予測可能なものから完全に不確実なものへとシフトしました。これはすべての業界、すべての国、そして私たちの労働生活のすべての側面に当てはまります。パンデミックからの落ち着かない状況、サプライチェーンの問題、あるいは環境問題であっても、来年がどうなるかは誰にもわからず、5年先は想像もつきません。


先進的な企業は、この新しい時代を受け入れる必要があります。そして柔軟なスタンスで、この不確実性に備えて計画しなければなりません。HPなどの先進的なテクノロジー プロバイダーのサポートにより、今日の課題を明日のチャンスに変えることができます。

HPはどのように役立つでしょうか？

HPのハイブリッドワーク用製品・ソリューションでどこからでも集まれるようにしましょう 

エンドポイントとデータのセキュリティの維持をHP Wolf Securityでサポートしましょう 

生き残るためにHP Elite PCおよびエコシステムを従業員に提供しましょう 

HPのサービスで問題を発生前に解決しましょう 

出典

¹ Bill Conerly博士、「The Flexible Stance: Thriving in a Boom/Bust Economy」、2016年。

² ウォールストリートジャーナル、「What Happened When United Stopped Trying to Predict the Pandemic」、2021年10月21日、<https://www.wsj.com/articles/united-airlines-predicting-covid-travel-flying-11634751129>

³ Forrester Q1 2021 European PandemicEX SurveyおよびForrester Q2 2021 US PandemicEX Survey。

⁴ Forrester社の調査、「Predictions 2022: Disruptive Forces Necessitate Bold Decisions」、2021年、<https://www.forrester.com/predictions/predictions-2022>

⁵ IDC FutureScape: Worldwide IT Industry 2022 Predictions、2021年10月、<https://www.idc.com/getdoc.jsp?containerId=US48312921>

Mark Evans氏、Lynne Labrador氏、およびRois Ni Thuama博士へのインタビュー、2021年。



© Copyright 2022 HP Development Company, L.P. 本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。ここに記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対してHPは責任を負いかねますのでご了承ください。